

第 1 5 1 6 回 島 根 県 教 育 委 員 会 会 議 録

日時 平成 2 7 年 1 月 2 1 日

自 1 0 時 0 2 分

至 1 0 時 5 5 分

場所 教育委員室

I 議題の件名及び審議の結果

— 開 会 —

— 公 開 —

(議決事項)

第31号 教育委員会の権限に属する事務の補助執行について (総務課)

————— 以上原案のとおり議決

(報告事項)

第68号 平成27年度島根県立盲学校理療科教員採用候補者選考試験の結果について (学校企画課)

第69号 平成27年3月県立高校卒業予定者の就職内定状況 (12月末)について (教育指導課)

第70号 平成26年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰について (社会教育課)

第71号 島根県青少年芸術文化表彰 (知事表彰) について (社会教育課)

第72号 島根県児童生徒学芸顕彰 (教育長表彰) について (社会教育課)

————— 以上原案のとおり了承

— 非公開 —

(議決事項)

第32号 平成27年秋の叙勲候補者の推薦について (総務課)

————— 以上原案のとおり議決

II 出席及び欠席委員

1 出席委員【全員全議題出席】

仲佐委員長 岡部委員 原委員 広江委員 森委員 藤原教育長

2 欠席委員

なし

3 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第17条第2項の規定に基づく出席者

藤原教育長

4 島根県教育委員会会議規則第14条の規定に基づく出席者

吉城教育監	全議題
細田教育次長	全議題
田中参事	公開議題
矢野参事	公開議題
祖田参事	公開議題
春日教育センター所長	公開議題
高宮総務課長	全議題
佐藤総務課上席調整監	公開議題
小村教育施設課長	公開議題
高橋学校企画課長	公開議題
佐藤県立学校改革推進室長	公開議題
吉崎子ども安全支援室長	公開議題
原田特別支援教育課長	公開議題
梶谷健康づくり推進室長	公開議題
荒木社会教育課長	公開議題
恩田人権同和教育課長	公開議題
野口文化財課長	公開議題
丹羽野古代文化センター長	公開議題
鈿福利課長	公開議題
柿本教育センター教育企画部長	公開議題

5 島根県教育委員会会議規則の規定に基づく書記

森脇総務課課長代理	全議題
小村総務課人事法令グループリーダー	全議題
小林総務課主任	全議題

Ⅲ 審議、討論の内容

仲佐委員長：開会宣言 10時02分

公 開	議決事項	1 件
	承認事項	0 件
	協議事項	0 件
	報告事項	5 件
	その他事項	0 件
非公開	議決事項	1 件
	承認事項	0 件
	協議事項	0 件
	報告事項	0 件
	その他事項	0 件
署名委員	原委員	

— 公 開 —

(議決事項)

第31号 教育委員会の権限に属する事務の補助執行について (総務課)

○高宮総務課長 議決第31号教育委員会の権限に属する事務の補助執行についてお諮りする。

資料の1の1をご覧ください。教育委員会の権限に属する事務の補助執行だが、簡単に申し上げると、教育委員会が行うべき事務について、その事務の実施を知事部局にお願いをすると、そういうことについての議決をいただくというものである。

事務の内容は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律、いわゆるマイナンバー法というもので、ご承知のように社会保障・税番号制度、これがマイナンバーになるわけだが、これが来年の1月から運用されることになっている。スケジュールとしては、平成27年の10月に住民票を持っている方一人一人に12桁の番号が割り振られ、来年の1月からはその番号を使って、社会保障とか、税の関係とか、災害対策とか、様々な分野で申請書などにマイナンバーを記載するということで、行政手続の簡素化、効率化であったり、あるいは、公平性というものの担保をされるという制度が運用されることになっている。当然、こういうシステムを運用していくためには、事前にそれに必要な情報のシステムというものを開発していく必要がある。

マイナンバーの関係で教育委員会で対象となるのは、主なものとしては高等学校の就学支援金、これは年収ベースで910万円以下の方は授業料を払わなくてもよいということになるが、例えば、所得確認などをどうするのかということが出てきて、今は所得証明などによって確認をしているが、マイナンバーの登録などが行われると、そのマイナンバーを使って保護者の方の所得などが確認できるようになるので、そういう手間が省ける。同様のこととして、所得などに基いて給付がされるものとしては、例えば特別支援学校に通っておられる子どもさんたちに対する特別支援教育の就学奨励費であるとか、あるいは、学校などでは学校保健安全法などに基づく医療費の助成とか、いろいろ住民票が必要になったり、あるいは、課税証明、所得証明、そういったものが必要になる事務が学校でもあるわけだが、こうしたものがいわゆるマイナンバーの利用が開始されることによって手続が簡素化される。ただ、事前にそれに対応するシステムを開発しなければならないということがある。しかも法律上は、同じ県の機関ではあるが、知事部局と教育委員会は別々の情報管理者と位置づけされており、別々に情報システムを構築しなければいけないということにされている。これは、1つのところに余りたくさん情報が集約されるということはいかかなものかということで、法律上は知事部局と教育委員会で分けて情報システムを整備しなさいということになっている。

したがって、法律に基づいてシステム自体は教育委員会と知事部局で別々にシステムとして構築はされるわけだが、実際に教育委員会の中には、このような情報システムを開発したり、整備をしたりする専門の部署がない。一方、知事部局のほうには地域振興部に情報政策課があり、そこで県のコンピュータシステムの開発などをやっているのだから、教育委員会の名前と権限のもとにシステムは整備するわけだが、実際のシステム整備に当たっての実務の部分については、知事部局にお願いをするということで、名義はあくまでも教育委員会だが、事務の実際の部分を知事部局にお願いをしたいと、このことを補助執行と言っており、これについては教育委員会の議決が必要になるので、その議決について本日お諮りするものである。

——原案のとおり議決

(報告事項)

第68号 平成27年度島根県立盲学校理療科教員採用候補者選考試験の結果について
(学校企画課)

○高橋学校企画課長 報告第68号平成27年度島根県立盲学校理療科教員採用候補者選考試験の結果についてご報告する。

ご承知のとおり、県立盲学校には、職業教育課程として、あんまマッサージ指圧師、はり師、きゅう師を養成する課程が設置されている。その専門的な指導に当たる教員について、今年度1名募集を行った。選考日は昨年12月4日で、試験内容、小論文以下そこに掲げているとおりである。出願者は、1名であった。厳正なる選考試験を行った結果、人物、教育意欲、識見ともに教員としての職務に十分応え得る人材と判断して、名簿登載とした。倍率1.0倍である。

――原案のとおり了承

第69号 平成27年3月県立高校卒業予定者の就職内定状況(12月末)について
(教育指導課)

○矢野参事 報告第69号平成27年3月県立高校卒業予定者の就職内定状況(12月末)についてご報告する。

表や図は、これまでと同様の形でまとめている。表1だが、就職希望者数が変わらず1,108名で、昨年よりも92名ほど増えている。この92名の多くが県内就職で、県内就職率が高くなっている。

この県内、県外の割合は図2にまとめている。11月の段階では平成24年度よりも少し少なかったが、今回平成24年度よりも増えた。これは県外から県内に2名ほど希望が移って、その関係で79.2%となり、平成24年度よりも高い状況になっている。

それから、表1に戻るが、就職内定者数をあげている。それから、内定、その右側に内定率、内定者数は下の図3にこれまでの経緯も含めて掲載している。内定率については図1のほうで、これは先般、新聞でも報道されたが、過去10年で最高の数字となっている。94.8%である。それから、未内定者数が11月末に比べて43名減り、58名になった。これについては、これから受験する者、あるいは結果待ちの者などが該当するが、学校のほうで労働局、ハローワーク等と連携して、企業側への求人の確保を引き続きお願いする。あるいは、生徒に対しての相談支援、こういった両面で内定に向けて進めていきたいと考えている。

それから、図4のほうが地区別の内定率の比較である。11月の段階では平成26年度が前年度と比較して全て上回っていたが、今回は少し下がっているところがある。雲南地区がグラフでは差があるように見えるが、実際の人数としては4人の差であるので、特に不安材料とは考えていない。これから伸びてくると思っている。

○仲佐委員長 今の未内定者が58名ということだが、あと3カ月あるが、内定率が100%にいくという見込みか。

○矢野参事 例年、内定率がほぼ100%近くになるが、昨年度末の段階でも14名程度の未内定があった。この14名も家業を継ごうと思っていたが、家でなかなかそのことが進まないとか、自分で就職先を見つけるといって都会へ出たとか、そういった者も含めての14名であったが、そういった者についても今、アルバイトを続けるとか、就職を実際にした者も数名いて、引き続き支援しているところであり、その程度まではいくのではないかと推測している。

○仲佐委員長 ここ3年ぐらいの平均で、未内定の方が卒業されて、その先のフォローは教

育委員会としてはされているのか。

○矢野参事 随時、最終的に就職につながるまでハローワーク等と連携していて、企業を紹介するとか、あるいは、本人の面談をするとか、そういったことも引き続きやっている。

○原委員 この資料は、県立高校卒業予定者の就職内定状況だが、中学校卒業予定者で就職をされる方について少し気になっている。県内の中学校でも近年毎年、やはり就職をされる方がいらっしゃると聞く。様子を聞くと、家庭的にいろいろあって、金銭的なことから高校進学を断念するということもあるようである。貧困のことがとても問題になっているが、そういったものが何かこうひしひしと子どもたちの周り、私たちの周りにもこう感じられることがあるなと思い、中学校卒業予定者で就職を希望している子が、現在どのぐらいいるかということをお聞きしたい。

○矢野参事 学校基本調査によると、平成26年3月卒、昨年度末だが17名、その前の平成25年3月卒で15名、平成24年3月卒で13名ということで、大体卒業者が6,500から6,600人程度なので、そのうちの10数名というところである。

○原委員 高校に行ったけれども中退する子もかなり多いようである。中退した子が何をしているのかというのもすごく気にかかっていることで、市内の大型ショッピングセンターに平日の昼間、中退した子とか、中学卒業して就職もせずに家にいる子とか、そういった子がかなりたむろしている様子が見受けられる。国は少子化対策ということでいろんな対策を施しているが、今の子どもがきちんと自立した社会人になって、国に税金を払うような子どもに私たちが育てているのかということが気にかかっている。

○吉崎子ども安全支援室長 今具体的な数字はないが、先般ご説明した平成25年度の生徒指導の問題行動調査の資料に、高校中退者のその後の動向についても掲載している。基本的には転学とか、通信制の学校へ通っていて、特にお昼にそういうところに行ってる子どもも若干いるかとは思いますが、その辺のところは我々が把握をして、次の対策をとって行く必要があるとは承知している。また今年度、26年度卒の子どもさんについても、そういったところを調査をかけて実態を把握していきたいと思っている。

それからもう一つ、中学校を卒業して高校へ行かずに引きこもっていらっしゃる子どもさん、それから、高校を中退してなかなか外に出られずに引きこもっていらっしゃる子どもさんについては、連絡調整員を子ども安全支援室で配置をして、いろんなアプローチをして、就学に向けたり就労に向けたり、サポステ等とつないだりしながら、対策を今少しずつ進めているところである。あわせてそういった実態も報告させていただきたいと思っている。

――原案のとおり了承

第70号 平成26年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰について（社会教育課）

○荒木社会教育課長 報告第70号平成26年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰についてご報告する。

4の1ページをお願いする。2番のところに表彰式と書いているが、昨年12月8日、文部科学省で既に表彰式が終わっているものであり、それについてご報告をするものである。

趣旨のところだが、学校、家庭、地域が連携協力して、社会全体の教育力の向上に向けた取り組みの一層の推進を図ることを目的に、地域全体で教育活動を支援している活動の内容が優れたものであるとか、あるいは、他の模範になるようなものについて表彰の対象にするということである。

3番のところだが、島根県からは、浜田東中学校区学校支援本部の活動、高角小学校の教育コミュニティ創造の活動、この2つの活動が表彰された。

それぞれの活動の特徴的な事項をご説明する。4番の浜田東中学校区学校支援本部であるが、この地域は、この校区内にある国府公民館が障がい者に優しいまちづくり、あいサポート運動を進めておられる。校区内の小学校、中学校、それから特別支援学校も合わせて、公民館と連携してそういった活動をされており、障がい者に優しいまちづくりの活動を校区全体で行っておられる点が特徴的である。2点目だが、校区内に小学校が3つある。国府小学校、上府小学校、有福小学校だが、そういった小学校と、浜田東中学校、加えて県立の浜田養護学校、浜田ろう学校も合わせて、学校を支援するボランティアと学校をつなぐ役割をしておられるコーディネーターさんが調整をして様々な活動を助けておられるという特徴がある。特に、養護学校やろう学校での活動が特徴的であった。このほか、学校を支援するボランティアの方々も、地域住民とか保護者の方はもちろんだが、退職された教員の方とか、あるいは、社会福祉協議会の方、小・中学校の教職員、そのほかの行政関係者といった多岐にわたった方々が、学校を支えるボランティアに参加されている。

もう一つの高角小学校の教育コミュニティ創造の活動についてご説明する。この高角小学校の校区は、2つの地区、嘉久志地区と和木地区にまたがった地区であり、各地区の婦人会の会長さんを学校支援のコーディネーターに任命して、婦人会のネットワークを活用しながら学校支援を行っている。特にそうした両方の地域から、コーディネーターやボランティアを登用することにより、両地区の住民の方の交流の場にも学校がなっているということもあり、新しいボランティアの発掘につながっているということで、平成25年度は延べ1,000人以上の方がボランティアとして参加いただいているということがある。それから、2つ目の特徴だが、もともと子ども見守り活動からスタートしているが、放課後子ども教室等に発展して、多様な世代が参画されている。そうした中で、学校としては、放課後子ども教室の活動場所を、図書館とか、いろんな場所を広く開放して、子どもたちと地域住民のふれあいの場として提供している。土曜日とか、長期休業中の教育支援活動として、実際の学習活動は地域住民の方が中心になってやっているということで、それぞれ学校と地域ができることを持ち寄って、協力して子どもの学習活動を支えているという状況があり、それぞれの活動が表彰された。

――原案のとおり了承

第71号 島根県青少年芸術文化表彰（知事表彰）について（社会教育課）

○荒木社会教育課長 報告第71号島根県青少年芸術文化表彰（知事表彰）についてご報告する。

5ページをお願いします。1番の趣旨であるが、本県の芸術文化の発展向上に対する功績が顕著で、今後一層の活躍が期待される青少年、小・中・高校生を表彰するものである。毎年度2回実施されており、今回は今年度の1回目である。したがって、4月から11月末の間に大会があったものについての表彰である。12月から3月分については、第2回目として3月に表彰を予定している。

2番の表彰対象だが、表彰要綱で具体的な大会を指定している。全国規模の大会とその大会に準ずると認められる大会、これは表にないものについて、随時検討して該当するかどうかを、この事業自体は秘書課の事業であるので、秘書課が判断されるということだが、そういった大会で最優秀又はそれに次ぐ賞を受賞したものを対象としたものである。

今回の第1回目の表彰者だが、出雲市立第一中学校の合唱部である。第67回全日本合唱コンクールの全国大会、中学校部門同声合唱の部で金賞を受賞された。10月26日に岩手県の盛岡市で開催された大会である。この全国大会のときのこの同声合唱の部の参加校が26校あったが、そのうちの10校に金賞が与えられたということで、1位タイである。10

校のうちに入ったということである。

○仲佐委員長 この予選というのが多分あると思うが、中国5県なのか、島根県から1位になれば出場できるのか。

○荒木社会教育課長 県大会、中国大会がある。県大会は11校が参加して、そのうちの5校が中国大会へ進んだ。中国大会は各県から18校が参加して、そのうちの3校が全国大会へ出場した。

――原案のとおり了承

第72号 島根県児童生徒学芸顕彰（教育長表彰）について（社会教育課）

○荒木社会教育課長 報告第72号島根県児童生徒学芸顕彰（教育長表彰）についてご報告する。

この教育長表彰は、先ほどの第71号で知事表彰を説明したが、知事表彰が最優秀又はそれに次ぐ賞であるが、その次の入賞等については教育長表彰を行うというもので、先ほどの71号と72号は一つのセットの表彰である。

趣旨に記載のとおり、学術・文化活動を通じて本県の児童生徒に豊かな人間性を育むため、優秀な成績を収めた児童生徒を顕彰するというので、知事表彰は表彰だが、教育長は顕彰ということで、こういった立派な活動を広く世間に知ってもらおうという趣旨で顕彰と呼んでいる。本年度2回実施の予定で、これは第1回目、先ほどの知事表彰と同様である。

顕彰の対象も先ほどご説明した知事表彰と同様である。全国規模の大会及びそれに準ずると認められる大会で、こちらは入賞以上と認められるものについて顕彰を行うということである。

6の2に顕彰された方を載せているので、少しご説明をさせていただく。12個人13団体についてである

まず、7月21日の全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会である。C級という部門だが、このC級は、初段の方々が参加されるもので、このほかにはA級の4段以上、B級の2段、3段の方が出られるものがある。今回はこのC級初段の部で優勝という成績だった益田高校の品川さんが、こういった立派な成績を収められたということである。

次のNHK杯全国高校放送コンテスト、これは部門が2つあるが、朗読部門とラジオドキュメント部門で、それぞれ入選であった。この入選は11位に相当する賞だが、石見智翠館高校の今井さん、石見智翠館高校の放送部が受賞されている。

それから、次の7月28日から30日、31日の全国高等学校総合文化祭については、8月の教育委員会会議で報告をさせていただいているので、省略をさせていただく。

次の8月7日の高校生英語弁論大会である。これは、全国大会は各ブロックの代表8人によるものだったが、もともとは全国で約500人参加があったということで、この外務大臣賞は1位に相当するものである。松徳学院高校の板垣さんが受賞をされている。

それから、8月20日のNHK杯全国中学校放送コンテストだが、ラジオ番組部門の優良賞ということで、出雲の浜山中学校放送部が受賞されている。

次の10月11日、NHK全国学校音楽コンクールの全国コンクール、高等学校の部だが、これは11校のうち、優良賞は5位に相当する賞だが、出雲の北陵高校の合唱部が受賞されている。

それから、10月16日の全国豊学校絵画展、中学部・高等部の優秀賞を浜田ろう学校の中学部の朝付さんが受賞されている。これは2位に相当する賞である。

それから、10月18日の統計グラフ全国コンクール、第4部の中学校の生徒の部である。佳作として仁多中学校の塚本さん、柴田さん、萩原さんの3名の合作の作品が受賞したとい

うことである。

それから、次の10月19日、全日本高等学校声楽コンクール、優秀賞ということで、松江東高の渡邊さん、この優秀賞は4位に相当する賞である。

10月25日、全日本吹奏楽コンクール、中学校の部、銀賞、出雲市立第一中学校の吹奏楽部、この銀賞は第11位に相当する賞である。

それから、次の10月の25、26日の全日本合唱コンクール全国大会、先ほど知事表彰の出雲第一中学校はこの大会で金賞をとられたが、そのほかにも県内から3校、全国大会に出場しており、高等学校Aグループでは出雲の北陵中学・高等学校の合唱部が銅賞、それから、中学校部門の混声合唱で島根大学附属中学校のコーラス部が銀賞、高等学校Bグループの部門で出雲高校のコーラス部が銅賞ということで、それぞれ受賞されている。

それから、11月の2日、8日、9日に開催された日本管楽合奏コンテスト、これは全国大会だが、それも出場されており、高等学校のB部門では最優秀賞ということで、出雲北陵高校の吹奏楽部、最優秀賞の中には文部科学大臣賞という1位にあたる賞があるので、これは2位相当ということである。中学校のA部門、審査員特別賞、出雲市の光中学校の吹奏楽部である。高等学校のA部門で、最優秀賞、益田東高等学校吹奏楽部ということである。

それから、11月9日、少年の主張全国大会、奨励賞、これは12人中4位相当だが、柿木中学校の河野さん。

それから、11月22日の全日本小学校バンドフェスティバル、銀賞、今市小学校の吹奏楽部。

それから、一番最後だが、全日本マーチングコンテストの高校以上の部に2校出場され、出雲商業高校の吹奏楽部、出雲北陵高校の吹奏楽部がそれぞれ銀賞を受賞されているということで、スポーツはもとより、県内の文化系、芸術系の部活動の子どもたちも大変頑張っているということで、少し長くなったが、詳しいご報告をさせていただいた。

○仲佐委員長 全国くまなくいろいろな県で大会が開催されている。合唱部や吹奏楽部は、かなりの人数で遠征されると思うが、この費用は学校が全部賄うのか、それとも県から補助が出るのか。

○矢野参事 中学校の場合は、設置者は市町村なので、県からは全く補助は出ない。自治体によっては、こういった全国規模の大会になると、市のほうから、あるいは後援会があるので、そういったところから費用を出していただいている。ただ、本人負担はもちろん幾らかはお願いしている。

――原案のとおり了承

仲佐委員長：非公開宣言

―非公開―

(議決事項)

第32号 平成27年秋の叙勲候補者の推薦について(総務課)

――原案のとおり議決

仲佐委員長：閉会宣言 10時55分